

令和8年10月1日

保護者様

京都市立南大内小学校
校長 高田 陽子

令和8年度 学校評価アンケート＜前期＞

平素より本校教育推進に多大なご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、6月に実施しました学校評価アンケートの結果についてお伝えします。アンケートの数値と子どもたちの様子や保護者の皆様のご意見をもとに、計画・実行・点検・検証（PDCA）のサイクルで学校教育の充実と向上を図りたいと考えております。

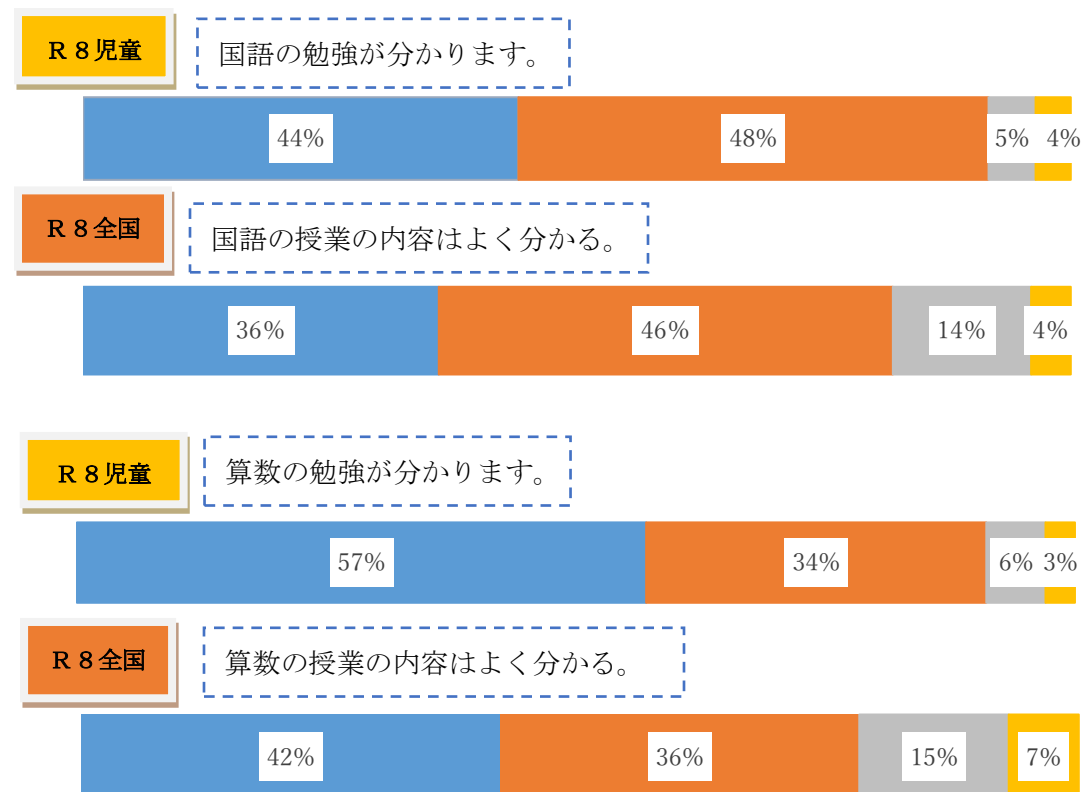
＊グラフの項目、左より 「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」

R 8 全国 は令和8年度の全国学習状況調査質問紙の回答結果を示しています。

1 「確かな学力」の育成に向けて

本校の学校教育目標の中に、『自らを高める』とあります。本校では子どもたちが「主体的に学ぶこと」を実現し、自らを高めることができる資質・能力を育てることを目指しています。

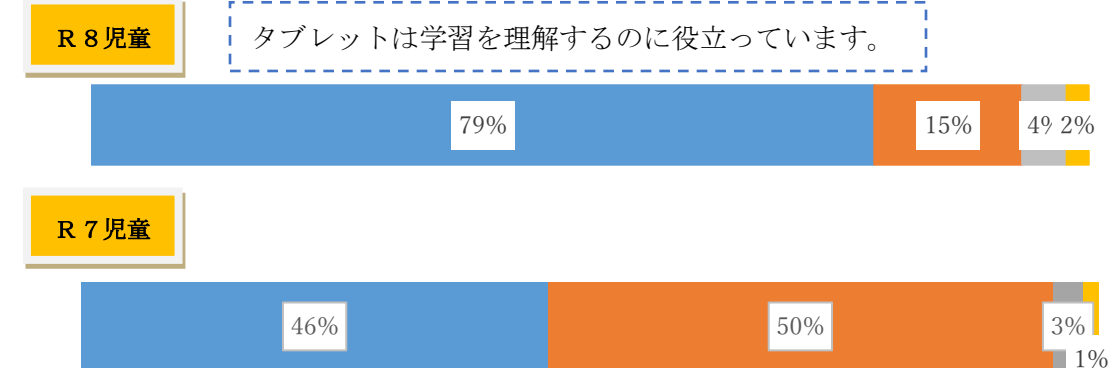
子どもたちの『学ぶ姿』について以下のアンケート項目の結果をご覧ください。



児童アンケート項目「国語・算数の勉強が分かります。」と全国学力学習状況調査質問紙項目「国語・算数の授業の内容はよく分かる」の比較です。国語科と算数科ともに「そう思う」「大体そう思う」と回答した割合が全国よりも高いことは嬉しい結果です。

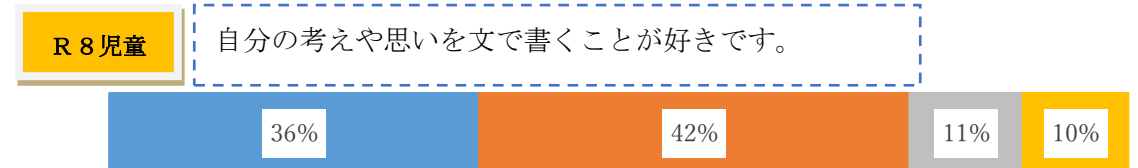
本校児童の回答結果に着目すると、国語科よりも算数科の方が「分かる」と回答した児童が多いことは驚きです。昨年度は国語科の方が「分かる」と回答した児童の割合が高かったです。児童に話を聞くと、「休み時間や放課後に先生と勉強している」や「友だちが分かりやすく教えてくれる」というような声が聞かれました。

算数科と同様に国語科もより丁寧に指導し、「分かる」児童が増えていくように努めていきたいと思います。



昨年度と今年度の比較になります。「そう思う」の割合が大幅に増加していることが分かります。その要因として考えられるのは、2nd GIGA端末（iPad）に変更となり、授業での活用が増えていたりことや、端末を使った効果的な授業の構築等が大きな要因だと思います。また、昨年度までの3年間で取り組んだリーディングDX事業の成果が表れていると考えられます。

また、昨年度まで課題だった、「学校で決められたルールを守れていない。」「学習とは関係のない使い方をしてしまう」ですが、4月に体育館で端末を使用する際のルール等や学習での使い方を全校で確認するGIGA開きを行ったため、大きく改善した様子が見られています。

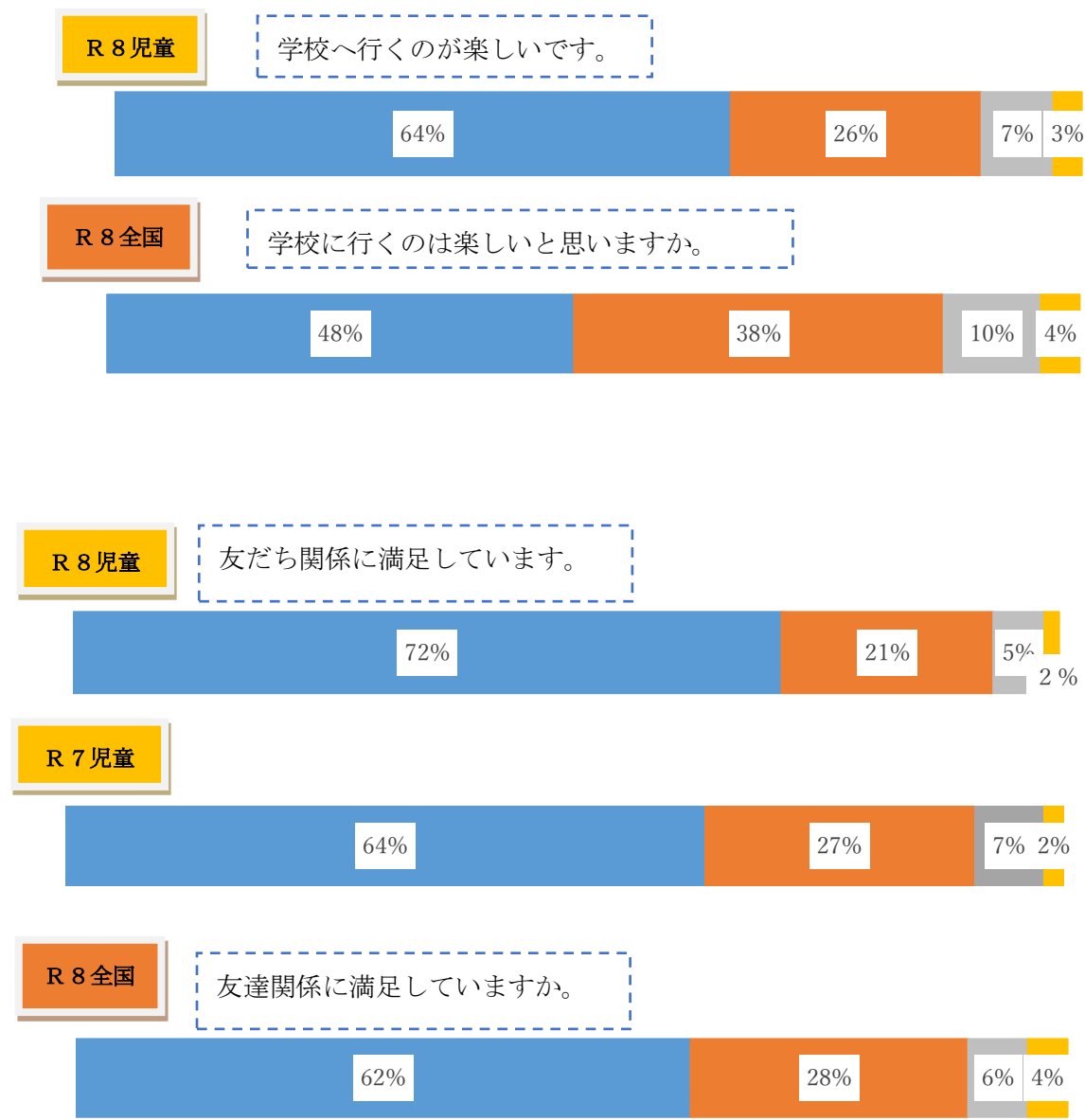


児童アンケート項目「自分の考えや思いを文で書くことが好きです。」の回答結果を見ると「あまりそう思わない」と「そう思わない」で21%を占めています。端末での学習もありますが、本校では従来の「書く」という行為を大切に考えています。「書く」から、「話す」につながっていくとも考えています。筋道を立てて文章を書いたり、助詞（て・に・を・は）を正しく使ったりできるよう、今後も指導をしていきます。

2 「豊かな心」の育成に向けて

豊かな心の育成のためには、互いに、支えあい、高め合う集団作りが大切です。そして、豊かな友だち関係は学校が楽しいと感じられる大きな要因です。本校ではトラブル等を素早くキャッチし、教職員全体で情報共有を行い、トラブル解決に臨んでいます。

子どもたちが日々の学校生活を安心して笑顔で過ごすことで、豊かな心の育成につながると思います。

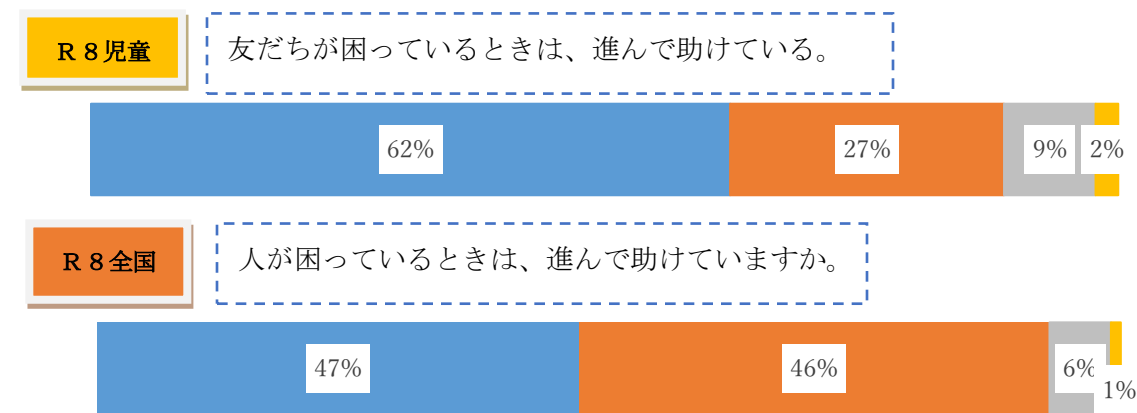


児童アンケート項目「友だち関係に満足しています。」の結果を見ると9割以上の児童が満足していると回答しています。また、昨年度と比較しても「そう思う」の割合が増えていることがわかります。さらに、全国学力調査質問紙の「友だち関係に満足していますか。」と比較しても本校児童の

友だち関係が良好であるということが分かります。学級の枠を超え、他学年の友だちとも仲良く遊んでいる姿を休み時間や放課後も見かけます。友だち関係に満足していると、学校へ行くのがより楽しいと感じることができると思います。今後も充実した友だち関係が築けるように見守っていったらと思います。

「学校へ行くのが楽しいです。」の項目を見ると、楽しいと感じている児童が多いことがわかります。全国学力調査質問紙の「学校に行くのは楽しいと思いますか。」と比較をしても本校児童が安心して登校できていると思います。

しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」に着目すると10%の児童が何らかの不安を抱えて登校していることが分かります。昨年度より端末で実施している「心の健康チェック」をこまめに確認していくように努めます。また、児童が文章を打ち込めるようになっていきますので、些細なことも見逃さず、複数の教職員で共有できるように努めていきます。その取り組みが、児童にとって学校がより安心できる場所になるものだと考えています。学校全体で「学校が楽しい」と思える児童を増やしたいと思います。

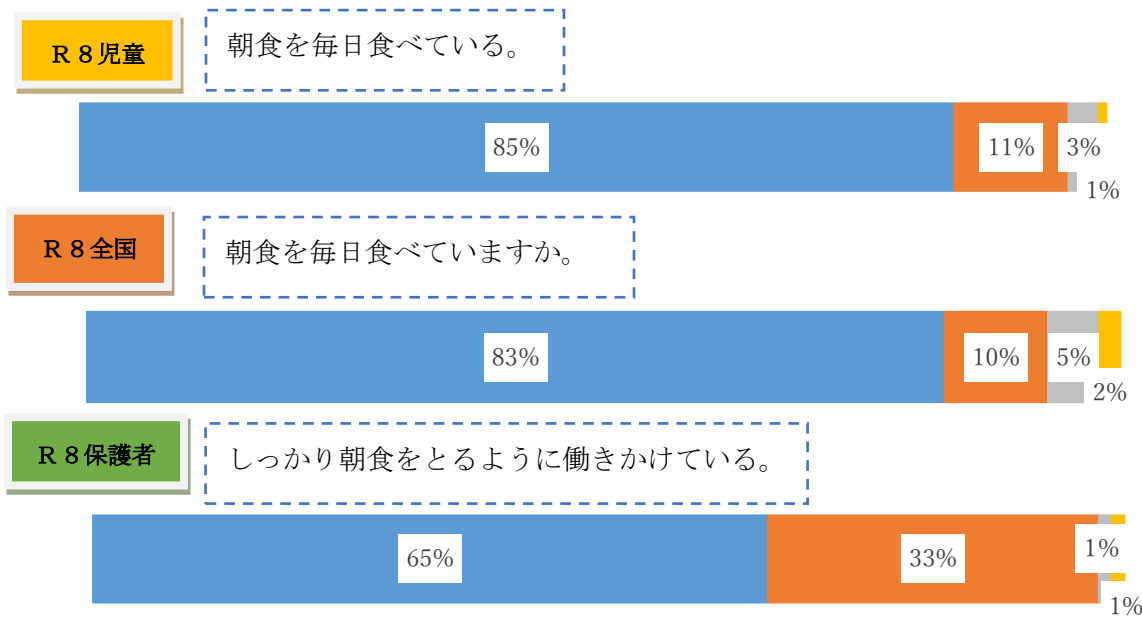


児童アンケート項目「友だちが困っているときは、進んで助けている。」の結果を見ると9割近くの児童が進んで助けていると回答しています。全国学力調査質問紙の「人が困っているときは、進んで助けていますか。」と比較しても本校児童が周囲の状況をよく観察し行動していることが分かります。本校はご存じの通り、すべての学年が単級です。そのため、他学年の友だちと触れ合う機会も多くなります。特にたてわり活動などの様子を見てみると、上級生は下級生の困りに対して、本当に優しく接している様子が見られます。嬉しいことに、そのような姿は、行事の機会だけではなく、日常の何気ない場面でも多く見られます。

ただ、「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値は全国と比べて、少し高くなっています。これからも相手の困りに気付き、自分にできることを考えて行動する経験を積み重ねていけるように支援していきたいと思います。

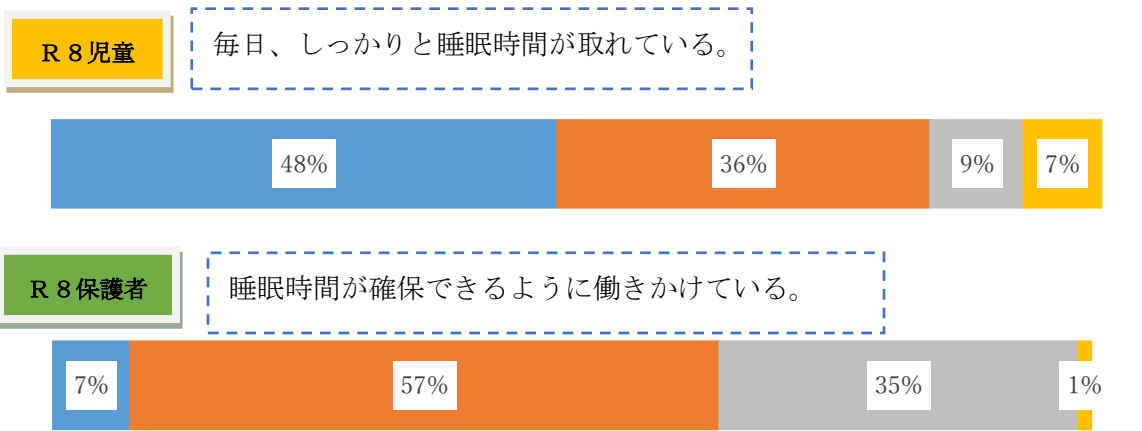
3 「健やかな体」の育成に向けて

健やかな体の育成のためには学校や家庭、地域が協力して子どもたちに呼びかけていくことが大切です。そのためには規範意識をもち、規則正しい生活をするのが必須になると考えます。学校や家庭での子どもたちの様子を正確に把握し、健やかな体の成長を目指していきたいと思います。



児童アンケート項目「朝食を毎日食べている。」の回答結果を見ると、ほぼ100%の児童が朝食を食べています。これは全国学力調査質問紙「朝食を毎日食べていますか」と比較しても遜色ない結果になっています。保護者アンケート項目「しっかり朝食をとるように働きかけている。」の回答結果を見るとほぼ100%のご家庭で働きかけをしていただいています。

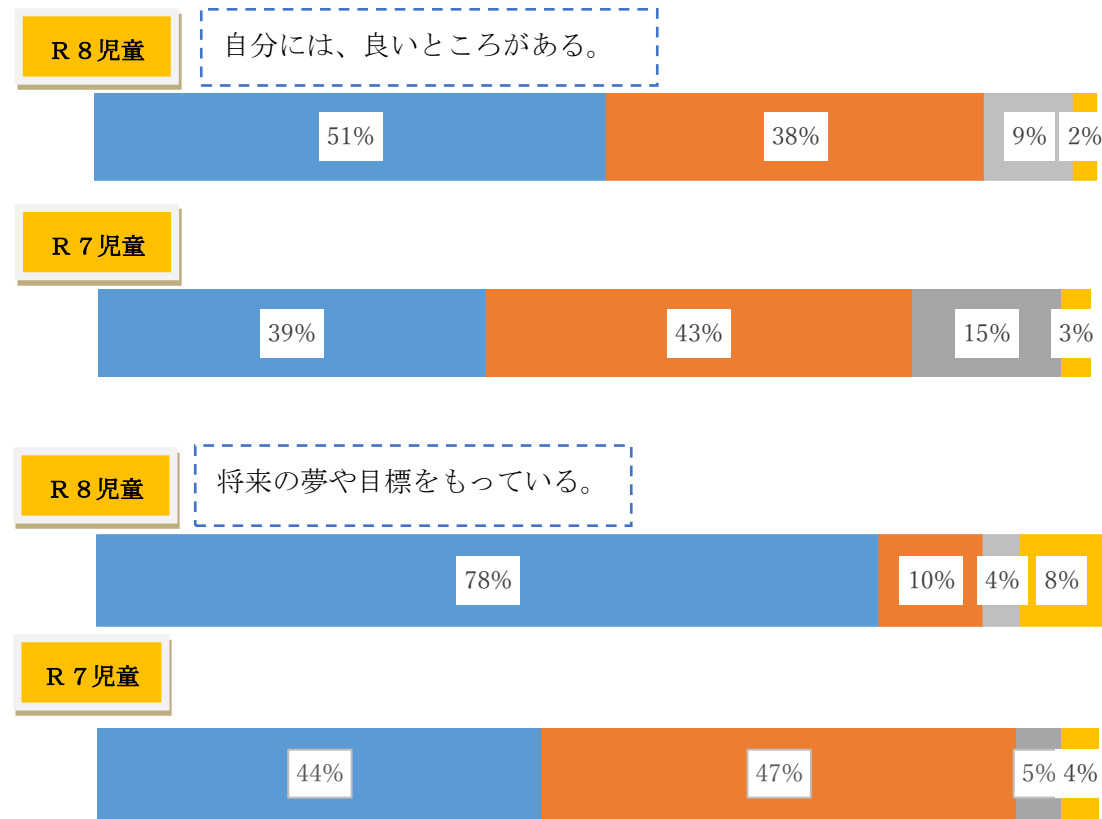
しかし、朝食を毎日食べていないと回答した児童も少数ですがいます。保護者の方が朝食を準備していても、食べずに登校していることも考えられます。学校でも朝食の大切さを改めて児童に伝えていきます。



児童アンケート項目「毎日、しっかりと睡眠時間が取れている。」の回答結果を見ると、84%の児童がそう思うと回答している。しかし、「そう思わない」と回答した児童の割合は他のアンケート項目と比較しても高くなっています。また、保護者アンケート項目「睡眠時間が確保できるように働きかけている。」の回答結果を見ると、お子たちの睡眠時間の確保がなかなか難しいような印象を受けました。

塾や習い事など、各ご家庭の事情はあるかと思いますが、睡眠は食事と同じくらい体づくりには欠かせないことです。可能な限りお子たちの睡眠時間の確保に努めていただきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

4 その他



児童アンケート項目「自分には、良いところがある。」と「将来の夢や目標をもっている。」の昨年度との比較です。「そう思う」と回答した児童が昨年度を大きく上回ったことは嬉しく思います。「子どもたちには無限の可能性が広がっている」という思いをもって常に声掛けに努めています。昨年度、気になっていた自己肯定感や自己存在感の低さが少しずつ解消されてきているのではないのでしょうか。たくさんの事を学んだり、たくさんの事にチャレンジしたりする子どもたちを今後も学校、家庭、地域が一丸となってサポートしていけたらと思います。